

	新大学案(平成25年10月版)についての質問(要点)	新大学案(平成25年10月版)についての質問に対する本学の考え方
①	合併の目的とは何か。	<p>大阪府市が共同設置する附属機関の新大学構想会議(学識経験者で構成)から出された新大学構想&lt;提言&gt;に対して学長コメントを発信しております。</p> <p>&lt;学長コメントの概要&gt;</p> <p>『「新大学構想&lt;提言&gt;」においては、統合によるスケールメリットを活かした新たな体制を確立する一方で、基礎・学術系が強い本学と、応用・学際系が強い大阪府立大学とを現在のキャンパスを基本とした特徴に沿って整理を図るなど、これまでの両大学の伝統や蓄積を活用し、それぞれの強みをより強化する内容となっており、これまでの本学の強みをより発展させるだけでなく、理系を中心に成果をあげてこられた大阪府立大学との統合により、より大きなシナジー効果が期待できるものであり、また世界とも戦える新しい公立大学の姿が示されていると考えています。』と学長コメントを大阪府に提出していますが、統合後の具体的な新大学像につきましては、大阪府立大学とともに今後更に検討を進めていきます。</p> <p>※「新大学構想&lt;提言&gt;」の詳細・学長コメントにつきましては、本学HP(<a href="http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/2012/bdghls">http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/2012/bdghls</a>)に掲載しておりますので、ご参照ください。</p>
②	大学のブランドとはどういったものになるのか。	<p>大学のブランドとは現在に至るまでに積み上げてきた教育・研究の実績や大学の歩みなどが、他の大学には無い独自性や強み・特徴となって表われたものであると考えます。</p> <p>大阪府立大学は、日本で初めての市立大学であり、大都市にある総合大学として、都市を学問創造の場としてとらえ、独創的で特色ある研究を推進する都市型総合大学であることや、医学部を含む8学部10研究科を擁し、国立の基幹大学に準ずる規模を持った公立最大の総合大学であるということなどにより、ブランド力を高めてまいりました。同様に、大阪府立大学にも大学を特徴付ける教育・研究の実績や取組み・歴史があります。</p> <p>府大・市大共に130年を超える歴史と伝統により培われたブランドが存在し、この両大学の統合によりシナジー効果が生まれ、互いのブランドが付加され、その強みを活かすことで新大学として新しいブランドが形成されるものと考えています。</p>
③	学部、学域等の分け方の基準はどのようにしてできたのか。学部・学域等の分け方の目的や意図は何か。	<p>新大学における教育組織の分け方については、府市が策定した新大学ビジョンに基づいています。</p> <p>新大学案(平成25年10月版)では学部・学域について、『高度な専門知識と柔軟な思考力を養成する学部と、専門性の基盤を形成する広域的な知識と応用力を養成する学域を設置することにより、複雑・多様化した社会のニーズに応える多様かつ多彩な人材を養成する』としていますが、今後、両大学によりさらに検討を進めていきます。</p> <p>※「新大学ビジョン」の詳細につきましては、本学HP(<a href="http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/corporation/integration/index.html">http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/corporation/integration/index.html</a>)に掲載しておりますので、ご参照ください。</p>
④	人間科学域の学類の分け方や名称について、どのように分類されているのか。	<p>人間科学域については、現在の本学の生活科学部を中心に、大阪府立大学の地域保健学域など人間のトータルサポートにまつわるものを集約し、幅広い学域として再構築するものであり、現在の生活科学部の教育・研究内容は引き継いでいきます。詳細については、今後さらに検討していきます。</p>

	新大学案(平成25年10月版)についての質問(要点)	新大学案(平成25年10月版)についての質問に対する本学の考え方
⑤	学部、学類、研究科、その中の研究室や設備がどのように分けられ、さらにそれがどこに配置されるのかなるべく早く知りたい。大雑把な方向性だけでも公表していただけないか。	新大学案(平成25年10月版)では、その別表で『教育研究組織』を示していますが、今後も段階的に熟度を高めていく予定としています。学部・学類・研究科及び研究室やその設備についてなど、個別具体的内容については今後の検討課題となります。今回、新大学案(平成25年10月版)に対する意見聴取を実施したことと同様に、各段階で確定した事項についても可能な限り早い段階で皆様に公表していきます。
⑥	「帰属意識を高めるためにも全学共通教育の一元化」と記載されているが、帰属意識という目的のために不必要な移動を増やすということか。	新大学案(平成25年10月版)では、『新大学のキャンパスは、当面、両大学の現存キャンパスの有効活用を基本とするため多数のキャンパスを有することになる。』としています。また、将来のキャンパス像として、『同じ学問領域で、キャンパスが複数に跨るケースが、複数の教育研究組織や全学教育研究組織においても生じることとなり、新大学として一元化した大学運営を推進していくためにも、このような状態は必要度の高いものから、順次解消することが望ましい。』としています。 新大学に設置される教育・学問分野の特徴や大学運営の一体感、利便性といったことも考慮し、キャンパスの詳細計画について今後更に検討を進めていきます。
⑦	部活動の統合の方向性についてはどうなっているのか。	課外活動は、学生生活の充実向上のために、学生が自主的に組織・運営する活動であり、大学は所定の条件を充たした課外活動団体(登録団体、公認団体)に対し、施設や備品の貸与、助成金の支給等を行っています。 新大学における各課外活動団体の組織のあり方については、まだ、具体には検討を行っておりませんが、本学、大阪府立大学ともにそれぞれの活動拠点がありますので、同じ競技種目であっても一つに統合することが難しい状況があるのも理解できます。 本学といたしましても、ご質問の趣旨を十分に尊重しながら、今後検討していきたいと考えています。